大平さんのご遺志を継いで

日向方齊

大平さんと個人的に親しくお付き合いをするようになったのは、末広会を通じてである。この会は発足以来今日までずっと続いているが、池田さんの没後、大平さんが中心となられてからは、お目にかかる回数もふえ親交が深まった。また近年では、会員一同家族そろって夏の軽井沢へ行き、家族ぐるみでお付き合いをしていただいたことなどが強く印象に残っている。

このような関係を通じて、私は大平さんの温厚で真面目な落ち着いたお人柄の魅力に強くひかれていったが、大平さんも何となく私に親しみを覚えておられたようで、お互いに親しみをもってお付き合いする間柄だった。

昭和五十二年の参議院選挙に、大平さんの秘書をしておられた真鍋さんが立候補された時、私は高松へかけつけ、住友系の会社の幹部に真鍋さんを紹介した。真鍋さんはもちろん当選されたが、こんなことは私としては珍しいことだった。これも大平さんのお人柄のしからしめるところであった。

政治家としての大平さんは、目立つ動きや派手な振舞いはないが、常時冷静に事態を見つめ、他人の意見をよく聞いた上で信念をもって決断される方だった。

大平さんが総理になられてからも、お会いする時はいつも心安く、思ったことをどしどし申し上げられる雰囲気だった。大平総理のご来阪の折、在阪経済五団体との懇談会などでお会いする機会も多かったが、そのような席でも経済界の代表が述べる意見をいちいちご自身でメモをとっておられたお姿が誠に印象的だった。大平総理

はわれわれ経済界の意見をよく聞き、政策に反映させようと常に努力しておられたように思う。

総理ご就任直後の第二次オイルショックに対するわが国の対応は、国際的にも最も優れた成績を収めていることは周知の通りである。対外的にも東京サミットの議長として見事に成功させるなどめざましい首脳外交を展開され、自由主義圏の主要な一員として積極的に役割を果たすべく努力された。

特に防衛問題について、私は二、三年前から日本が防衛の自己努力をしていないことを数字的に明らかにするとともに、もっと自主的防衛努力を尽すべきことを強調し続けてきたが、大平さんも五十五年四月末、訪米直前には、私と全く同じ意見を持つに至っておられた。即ち米国や欧州先進国ではＧＮＰ比で日本の三ないし六倍の国防費を注いでいることを指摘され、日本も経済大国として防衛費のＧＮＰ比率を高めていく必要があることを主張されたのである。

ワシントンでのカーター大統領との会談で、大平さんが信頼できる相談相手として高く評価され、またその後、大平さんの葬儀に大統領自ら参列されたのも、大平さんの真摯なお人柄とこのような防衛に対する考え方が相まって、大統領と心が通じ合っていたからだと思う。

防衛問題に対する国民の正しい認識が徐々に醸成されるなかで、せっかく大平総理が防衛に対する心の窓を開かれたのが、思いがけない急逝によりその実現が遠のきつつあるのは残念でならない。

故大平総理のご遺志を継いで、わが国の独立と安全を守り、国民の生命・自由・財産の基礎を固めるため自主的防衛努力を尽すことが、われわれ残された者の義務であると確信する。私は、ご逝去の朝、虎の門病院に弔問したとき、防衛問題は大平さんのご遺言のように心に秘めて辞去した。

（住友金属工業会長）